



H18.11.2 1216
静岡県漁業協同組合連合会
☎054-254-6011 Fax054-253-9343
編集・発行 = 指導部 漁政課
URL: <http://www.jf-net.ne.jp/sogyoren/>

1. 本会第5回理事会開催 平成18年度上半期の事業状況等を報告

本会では、去る10月26日第5回理事会を開催し、平成18年度上半期の事業状況、収支報告及び第21回参議院議員選挙立候補予定者の推薦等について審議を行い、いずれの議案も承認を得ました。

当期の事業内容は高止まりの石油価格が続く状況の中、主幹となる石油購買では数量、金額とも前年並みを維持したものの、価格上昇分を売価に十分転嫁できず利益率は大幅に減少し、資材購買では配合餌料がシラスウナギの豊漁により数量、金額ともに増加したが、生活物資におけるパルフェアの開催を従来年1回としたこと等により取扱高は計画・前年比共に横這いとなりました。

買取販売では養殖種苗の稚アジの需要増加により取扱は増加したものの、主要品目の食品加工製品が生協店舗の一部閉店等により、さらに加工原料魚でも国産アジの不漁により、いずれも前年比では若干の減少となりました。また、本会が力を注いでいる浜名湖産アサリの集出荷事業は、取扱数量が増加するとともに販売先の見直し等、採算性を重視した事業展開により大幅に収支改善が図られました。

一方、受託販売では昨年の天草に対する健康志向ブームと高値への反動もあり、取扱高は単価安により数量が増加したものの金額は前年を下回りました。

その結果、経済事業総取扱高は4,624百万円(計画比59%、前年比104%、以下同じ)と計画・前年比ともに若干増加したものの、事業総利益は217百万円(54%、91%)と前年比では減少となり、人件費を始め管理費削減に努力したものの、事業利益は前年を下回る17百万円の実績となりました。さらに事業外の収支面においては、会館収支の悪化、本会指導財源の負担を当年度で賄うこととしたことや貸倒引当金の見直し、土地建物など不動産収入や受取出資配当金の減収等により、経常利益は5百万円(26%、15%)と計画・前年比ともに大幅に減少する結果となりました。

また、非経済事業の指導事業では、県及び水産関係機関と連携し、県下漁協の経営基盤強化に向けた取り組みや県下漁協系統組織の経営改善・組織再編等の検討、監査事業や仮決算指導等を実施したほか、キンメダイの資源回復計画の実践作業や密漁防止研修会や遊漁船安全講習会の開催、「ふじのくにしずおかフードフェア」の開催準備、お魚ふれあい体験事業等の実施報告がなされ、また温水利用委託事業は新施設に沼津分場を加え2年目を迎えた中で、計画に沿った種苗生産等が概ね順調に行われている旨の報告がなされ、上半期の事業報告及び仮決算のいずれも承認を得ました。

次に、来年7月に執行予定の第21回参議院議員選挙の立候補予定者推薦については、現在漁業・漁村が抱えている問題解決のためには“漁業者の叫び”を国政に反映していくことが不可欠として、先月東京で開催された全国漁民大会でオール水産の比例代表候補者として決議されたJF兵庫漁連会長(全漁連理事)丸一芳訓(まるいち よしのり)氏を、ま

安全・安心な水産物供給と活力ある漁業づくりに努めよう

自立漁協の構築に向け合併・事業統合を進めよう

た静岡選挙区では竹山裕参議院議員の後を受けて立候補予定の県議会議員牧野たかお氏を夫々推薦することが承認されました。また、報告事項としては本会が抱える管理債権の整理状況について、信漁連の経営改善への取り組みと県下漁協の再編整備について、表彰関係については全漁連漁協運動功労者・静岡県農林水産業功労者・大日本水産会水産功績者の表彰について報告がなされました。

2. 平成18年度県農林水産業功労者表彰 漁業関係者3名が受賞

県、農林水産業の関係団体でつくる静岡県農林水産業振興会(会長石川嘉延知事)では、9月13日県農林水産業功労者表彰選考委員会を開催し、表彰受賞者36名を決定しました。

漁業関係では、本会並びに県信漁連が推薦した佐々木源也氏(前下田市漁協長)、杉浦君和氏(中遠養鰻漁協長)、山本新一氏(初島漁協長)が、漁協系統組織の強化や漁船の安全確保の推進と、本県漁業の振興発展に貢献した功績が認められ、表彰の栄誉に輝きました。ここに受賞された皆様に心よりお喜び申し上げますとともに、今後の一層のご活躍をご期待申し上げます。なお、表彰式は11月6日(月)県庁において執り行われます。

3. 第26回全国豊かな海づくり大会 佐賀県で盛大に開催

第26回全国豊かな海づくり大会が10月29日、佐賀県(佐賀市・唐津市・東与賀町の3会場)において、天皇・皇后両陛下をお迎えして、「響きあう人と海とのシンフォニー」を大会テーマに掲げ盛大に開催され、本県から西川会長をはじめとする15名が参加し、全国の漁業関係者と一般市民を含め約7万5千人が来場しました。

式典は佐賀市文化会館で行われ、JF佐賀有明海漁連山崎会長の開会の言葉で始まり、天皇陛下から「玄海と有明海という二つの海の環境が変化し、水産生物にさまざまな影響が見え始める中、森・川・海にかかわる人々が協力し合って、海の環境を良好に保つための活動を行っていることを聞き、誠に心強く思っています」とのお言葉がありました。引き続き、栽培漁業や資源管理型漁業及び漁場保全部門に功績があった団体や、作文・写真・絵画・習字の入賞者の表彰が行われました。

この後、地元小学生らによる「さが・ふたつの海づくりメッセージ」、漁業後継者代表によるメッセージに続き、両陛下が玄海・有明海漁業後継者に放流用のオニオコゼ・バフンウニ・ガザミ・アゲマキガイの稚魚・稚貝をお手渡しされたあと、大会推進委員会植村会長(JF全漁連会長)が大会決議を高らかに読み上げ、満場の拍手をもって採択されました。最後に古川知事から次期開催県の嘉田由紀子滋賀県知事へ大会旗の引継ぎが行われ閉会しました。

式典終了後には、干潟よか公園と唐津東港の両会場で、それぞれ歓迎行事と放流行事が行われ、干潟よか公園においては、両陛下がムツゴロウの稚魚放流とノリの元種をカキ殻へお手まきされました。

4. 会議・日程(11月7日(火)～11月20日(月))

- 既報分省略 -

11月 9日(木) 県密漁防止対策協議会 = 密漁防止研修会 (南伊豆町漁協)

11月16(木)・17日(金) 県漁業振興基金 = 伊豆地域栽培漁業推進協議会

16日 / 伊豆東岸地区協議会(網代漁協)・17日 / 伊豆西岸地区協議会(内浦漁協)

11月20日(月) 県養鰻協会 = 合併研究協議会 (県水産会館)

漁協系統事業の全利用運動を進め組織の強化を図ろう